

大学

お年寄りの頼れる助っ人

北国の冬の暮らして、屋根や軒下に降り積もった雪を取り除く「雪かき」作業は大きな重労働だ。雪かきの苦勞を考え、一戸建てをあきらめマンション住まいにする高齢者もいる。

「雪かき隊」は、高齢者世帯を対象に、学生たちが作業を請け負う助っ人のボランティア集団だ。春は大学周辺で清掃活動をしている学生たちが、「冬場にも何かできることはないか」と始めた。大学側も活動を資金面で支援する「夢プロジェクト」

穴あき

北海道工業大「雪かき隊」

事業」に採択している。隊は、巡回班と作業班に分かれ、あらかじめ登録している希望世帯の家を週1回のペースで巡回。希望日に合わせ、1軒につき2、3人の作業員を派遣する。雪の量や質で作業時間は変わるが、平均1時間半程度かかる。隊長で工学部3年の下家隆志さん(21)は「結構きつくて、終わった後は、体のあちこちが筋肉痛になります」。

1シーズンの出勤回数が100回を超えた年もある。町内会から感謝状が贈られたり、隊員が食事招かれて慰労されたりしたこともある。「寒さの中で楽ではないけれど、『ありがたう』の一言で、やって良かったとうれしくなります。これから受け継いでいきたい」と下家隊長は言った。(志田修二)



防寒着や長靴を身につけ家の前にたまった雪をスコップやスノーダンブで取り除く雪かき隊員たち。札幌市

05年度に発足し、現在の隊員は1年生から3年生まで計85人。一方、除雪を希望する登録世帯は、札幌市手稲区にある大学周辺の65歳以上の計22軒。活動期間は12～3月だが、今季は、例年に比べて雪が少ないこともあり、出勤回数は1月22日現在で計6回。

4大学共同で教員免許更新講習

新年度から、eラーニング活用

金沢、東京学芸、愛知教育の国立3大学と、私立千歳科学技術大学(北海道千歳市)は、教員免許の更新

東京農工大

女性教員増へ新制度

「3年後に比率10%超

東京農工大(東京都府中市)は22日、新年度から女性教員を採用した専攻はプラス1人分の教員を採用できるという新制度を導入すると発表した。約8%にすぎない女性教員の採用を促すのが狙いで、国立大では初めての試みという。男女共同参画を進めるためのポジティブアクション(積極的差別是正策)として、他の大学にも広がりそうだ。

農工大には26の専攻がある。来年度に常勤の教授・准教授・講師・助教に女性を採用した場合、その専攻に翌年度から2年間、プラス1人分の特任助教の人員費(500万円程度)を支給する。増員分の定員は毎年4人程度で、上回った場合はより高い職位で採用した専攻を優先する。

農工大の現在の常勤女性教員は449人中37人。今回の制度によって毎年4人ずつ増やし、「3年後に女性教員比率で理工系国立大初の10%超え(約11%)を達成したい」としている。

国立大の女性教員比率が、理工系の大学や学部低いところがほとんど。課程に在籍する女性の割合



国際教養大 中嶋嶺雄 学長

長野県生まれ。東京外国語大中国科卒業。東京大大学院社会学研究科修了。専門は国際社会学。東京外国語大学学長などを経て、国際教養大の開学とともに学長に就任。文部科学省の諮問機関「中央教育審議会」や、政府の教育再生会議の委員も務めた。72歳。

昨年4月に完成した秋田杉を使った図書館に立つ中嶋嶺雄・国際教養大学学長(堀英治撮影)



■近年の主な出来事

- 04年4月 公立大学法人として秋田市郊外に開学。定員100人
- 06年4月 定員を130人に増やす
- 08年3月 初の卒業生64人を出す。卒業生のうち83%が就職、17%が進学
- 08年4月 定員を150人に増員
- 08年9月 コミュニケーション分野の専門職大学院「グローバル・コミュニケーション実践研究科」(9月入学)を開設

秋田発 世界標準に

「日本の大学はこのままでいいの、同じような大学をたくさん作っても本当の教育をやってないじゃないか」という危機感があり、中教審などで発言して来ました。作るなら今の日本にない大学、国際標準の大学を作りたい。ずっと主張していたところ、秋田に国際系大学を作りたいという寺田典城知事から強い要請を受け、引き受けました」

「少数精鋭できちんと勉強してもらおうかわりに、大学も面倒をみる。教員はほとんどが国際公募で、当初20人の募集に400人以上来ました。その中の60人に面接し模擬授業をやってもらったのが非常に良かった。経歴だけ見ると、ケンブリッジやオックスフォードで博士号を取った人もいたが、研究と教育はかなり違う。若い人に教養を教

留学義務化 就職に有効

「なせ、秋田の大学の学長に？」

「学生全員に1年間の留学を義務付けていますね。今の時代は外国語のコミュニケーション能力をきちんと身につけなければならぬ。そこで、英語教育の仕組みを根本から変えたいんです。すべての授業を英語で行うというのが一つと、留学を義務づけ、しかも向こうの大学で1年分の単位をと

えられるかどうかを見ました」

「留学は苦勞も多いようだが、それだけによく勉強して一回りも二回りも人間が大きくなって帰ってくる。就職活動の時期が終わってから帰国する人もいるけど、企業も実力をみて採用してくれるので、留学経験は大いに役立っていると思いますね」

「講義に付いていけない学生もいるのでは。」

「入学早々EAP(学術英語)を集中教育します。卒業はかなり厳格にしていますが、TOEFL550点の壁がなかなか

か難しく、留学できずに卒業の見込みが立たない一期生が3人いました。一人ひとり、学長室に呼んで、転学の可能性も含めアドバイスしています」

「高校の学習指導要領改訂で、英語の授業は英語で行うようになりましたね。」

「遅きに失しましたが、おかげで、高度な英語教員を養成する本学の専門職大学院への期待が高まっています」

「海外からの留学生も100人以上いるとか。」

「日本の大学は中国、韓国、台湾からの留学生が多い。うち欧米からも幅広く来ている。授業は英語だし、欧米の大学と

個性を尊重 「暫定入学」

「入試が多様ですね。AO・高校生留学、推薦、A・B・C日程、9月入学と6種類の入試がある。全国から優秀な学生が受験してくれて、大手予備校が発表する難易度では旧帝国大レベルを超えています。入試は1点を競うわけですから、合格ラインより下だけど、英語はすごくいいとか、文系なのに数学は抜群という人たちが1年間、正規の学生ではなく科目履修生で入れる

同じく、半年で授業が完了する『セメスター制』なので来やすいですね。現在、世界のトップクラスの83大学と提携を結び、授業料が相互免除されるのも学生には魅力です」